

国語 解答用紙

空欄※には記入しないこと

※

受験番号

一 解答欄

※		※		※		※		※		※		※		※		※		※	
問一	<p>トクヴィルのいう平等化は、単に人々が平等になることを指すのではなく、人々の平等・不平等の意識が覚醒する事を指すという点で独特である。</p>																		
問二	<p>壁の内側では互いに想像力が働き、互いを自分と同じ人間とみなし、それ故にその差異には敏感となり、平等・不平等の意識が働く。一方、壁の外側には想像力が働かず、互いを自分と同じ人間とみなすことがなく、それ故にどれだけ差異があっても比較してみようとさえせず、平等・不平等の意識は働かない。</p>																		
問三	<p>(1) 身分制秩序の時代 () (伝統社会の時代 * 「貴族制の時代」も可) (2) グローバル化 () (脱国民国家化)</p>																		
問四	<p>平等化の時代とは、想像力の限界として機能していた壁が崩れ、皆が壁の内側にいる状態を意味し、故に人々は互いを自分と同じ存在とみなすと同時に平等・不平等の意識が活性化し、結果として異議申し立ての人々が台頭し、既存の秩序が不安定化する時代であるから。</p>																		
問五	<p>自分が他の誰とも等しい存在であることは、他の誰と比べても特別な存在ではないことを意味し、平等であることに誇りを感じる個人は同時に平等でしかないことに不安を感じるという事態。</p>																		
問六	<p>平等社会において自分の同等者から成る多数派による主張が少数派に強制され、少数派や個人も自分を抑圧する多数派に立ち向かう根拠を自分に見出せず彼らを正しいと思い多数派の抑圧を容認してしまう事態。</p>																		
問七	<p>平等化の時代は想像力の限界としての壁が崩れ平等・不平等の個人の自意識を活性化し、個人が平等を誇るが平等でしかないという事態を作る。その必然の結果個人は同等者の総体である社会の声に対し無力となり、社会の声を形成する多数派に立ち向かう根拠を自分の中に見いだせず彼らの抑圧を容認し、多数の暴政が生まれる。 (二五〇字)</p>																		

二 解答欄

①	マヌカ	②	ユル	③	ムゾウサ	④	ミヤクラク	⑤	ジュンカン
免(れる)		緩(やか)		無造作		脈絡		循環	